

# ロス・アンゼルス；ソネット隨想

光 岡 新

## Los Angeles

by Arata Mituoka

Two times Los Angeles I visited,  
As grandchildren are brought up merrily.  
And every morning near-by I walked,  
Enjoying southern flowers sweetly.

Along the roads green lawns are spread freshly,  
Each house exhibits owner's tender heart.  
There is no fence to sever them strictly,  
Front yards are their common treasury smart.

Ours are encircled by various fences,  
They variedly imply historic,  
Politic and economic senses.  
Amongst the profoundest may be ethic.

To have not a fence front will be better,  
We can enjoy open space together.

## ロスアンゼルス

沢山の市の集まった広い広い都市です。3人の孫どもが1974以来3年間楽しくはぐくみ育てられました。1974年と76年の夏二度訪問しました。

街路は広く、住宅地の道路の両側には緑の芝生が続いています。通りには夫々違った街路樹が大きく育っています。家々には南国特有の多彩な花樹や珍しい草花が咲き誇っています。

町行く人は稀れでしたが夫々に親切でした。

後で朝の楽しい散歩を思い出して見ると前庭に垣がなかったのです。広い道路が一層広々と楽しいです。‘ゼー’と言いましたか、小鳥の鳴声も聞え、まるで前庭は共通の宝物のようでした。

翻って、垣について考えると色々と思ひ出されます。歴史的には中国の万里の長城、古代都市夫々の城壁は東西を問いません。これらも政治的意味は強いですが、最も政治的なのはドイツの東西を隔てるベルリンの壁です。

経済的には最近世界的に問題となって来た領海権 200 海里の問題です。但しこれをもっとも身近に考えると、結局、垣根は住民の道徳的意識のシンボルです。

東京や大阪の街を考える時、家々が前庭を開放する設計に替えたなら、どんなにか道は広くなり、お互の庭を楽しむことが出来るようになることでしょう。

ロスアンゼルス朝の散歩を楽しく思い出すごとに、我々の身近の垣を考え直して、少なくとも前庭の垣根を取り払うならばと考えます。だんだん狭く狭くなる都会生活もお互の空間を拡げることが出来るでしょう。人間一人一人の垣根を取り去ることによって、日常生活の潤いを増し得るのでは無いでしょうか。

## ソネット随想

最初の英詩はソネットです。ギリシャ、ローマ時代からの伝統を伝える詩形です。弱強 5 歩格（即ち各々の行は10音節）、脚韻があって、14行詩です。

始めに3つの詩題を持っていました。3題くらいは作れると意気こんでいました。

(1) 国旗即ち日の丸の旗についての新しい解釈。

科学論文で「太陽は原子破壊装置である。水素・炭素・窒素・ヘリウムなどの原素の核反応によって、太陽は永遠の光と熱を得ている」という事を知って、日の丸への新しい原子時代の考察をして見たいと考えています。

(2) ‘稲から米へ’これが日本文化、東洋文化の根元です。実は1974年アメリカのワシントン州、スポーケンでの万博の、日本館のテーマであったのです。

昨年一年間、山陽線で岡山から松永まで列車で通勤しました。春から夏への稲の生長力。一・二週間の内に日本国中の平地という平地が一面に緑に塗りつぶされる気持がしました。秋にはこの一面の緑が黄色になり、最後には黄金色に替ります。これが鎮守の森を囲んで秋祭りがやってきます。

この稲の生育が日本人の生活のリズムの基調で、我々の日常生活の隅々に稲や米は種々の食物として、また生活用品として行きわたっています。

(3) 文学とは創作なり。とかく新制大学になって「文学とは批評なり」という風潮に傾き過ぎて居るという主張です。評論が文学の主流であるかの様な、創作を二の次に取り扱う、偏見に対する反省です。

アメリカでは戦後作家を大学に席を置かせ学生に接近させたり。創作の指導をさせた例は一、二に止まりません。

他方、漢詩の例を考えて見ました。

今日なを詩吟という形で林羅山・石山丈山・頼山陽・梁川星巖・広瀬淡窓などの漢詩が愛好され歌われているのを聞きます。

日本の英語・英文学研究も100年を越えるに至っています。先人の例に習って、漢詩に代えて、英詩を創作し、想いの程を表現する努力を試みては如何なものでしょう。

## む す び

以上のような心境から四つのソネットを夏頃から試みました。戦後の英語に **approach** という言葉が使われます、近づく、接近する、肉薄するという意味です。夫々の詩題で肉薄攻撃を試みました。東洋風に起承転結と四連を列べて行きますが一番新鮮で一番新しい、一番深い

印象であった、ロスアンゼルスの旅の印象の整理が楽でした。

最近読んだ英国現代詩人カーカップ氏の説ですが、韻の整理を試みて居る時、思はざる新らしい考えが浮んだり、予想もしない韻を捉え得てボナンザグラム、クロスワーズ・パズル、又は謎を解き得た時、或いはそれ以上の新鮮な楽しみを掘り出すことが出来ました。

宝石採掘家がルビーやダイヤモンド、砂金を掘り出す楽しみもかくやと思はれます。こんな楽しみを創造とか創作の楽しみの一つといえるでしょう。